幕軍に加わり、備前藩兵の攻撃を受けたが無抵抗で開城し、兵火を免れている。明治十二年、太政官布告で名古屋城とともに国内無比の名城であるとして保存の指令が出されている。昭和三十一年から三十九年にかけて天守の解体修理も完了、八棟が国宝数十棟が重要文化財に指定され、その威容が今も保たれている。

ガイドの案内で次々と登ってくる観光客、私もいつしかガイドの話に耳をかたむけていた。「主君が亡くなり、その後の千姫はどうなりましたか」と尋ねると「そこまでは勉強不足で知りません。申し訳ありません」と答えるガイドのあどけなさが、〝野暮な質問をしたな〟といつまでも心に残った。

秋空に白く美しい姿を見せる白鷺城、何度でも訪れてみたい城の一つである。

『表紙解説』

この不動明王は迎接庵に隣接する波切不動堂の本尊である。高さは一五〇センチあり、これ程の大きさを持った仏像は、近隣の市町村では見ることができないという。眉を吊り上げて両眼を見開き、口の端に牙をむき出した忿怒の相であるが、他地域の不動明王と比較すると温やかであるという。

一方、像に施された色彩は新しく、近代になって補彩されてものであろうか、そのため何の木に彫られたか断定できないが、全体像から推測して楠と考えられている。但し、腕の部分と膝前は別の材質であるという。

仏像の胎内には天保十一年(一八四〇)庚子年と墨書しているから、これが製作年代と考えられ、全体像から推定してもそうであるとしている。

なお、像を置く岩座や火焔、それと光背等も当初のものであるという。

参考＝米水津の文化財